

平成28年度第1回川崎市上下水道事業経営審議委員会会議録

1 開催日時

平成28年8月9日（火）15:00～17:00

2 開催場所

東海道かわさき宿交流館4階 第1・2集会室

3 議題

- (1) (仮称)「上下水道ビジョン」(素案)について
- (2) (仮称)「上下水道事業中期計画」(構成案)について
- (3) 今後のスケジュールについて
- (4) その他

4 出席者

(1) 委員会委員(敬称略)

小泉明(委員長)、長岡裕、中野英夫、磯谷馨、魚津利興、大坂明子、梶ヶ谷雪香、吉田知敬、安藤知司、岩瀬記代

(2) 上下水道局職員

上下水道事業管理者、総務部長、経営管理部長、サービス推進部長、水道部長、水管理センター所長、下水道部長、下水道部担当部長(下水道施設)、担当部長(調整担当)、庶務課長、経営企画課長、経営企画課担当課長(国際事業推進)、財務課長、サービス推進課長、水道計画課長、下水道計画課長、担当課長(調整担当)ほか

5 傍聴者

なし

6 会議内容

以下のとおり

事務局

定刻となりましたので、平成28年度第1回川崎市上下水道事業経営審議委員会を開催させていただきます。私は、事務局を務めさせていただきます経営企画課長の山梨と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

また、平成28年度に入りまして初めての開催ということで、局側の出席者のメンバーが昨年と比べて一部変更となっています。こちらにつきましては、皆様の席上に、本日の席次表を配布させていただいておりますので、そちらをご覧くださいと存じます。それから本日ですが古米委員、中村委員、磯貝委員の3名様におかれましては、日程の調整がつかないということで、欠席でございます。

本日の会議ですが、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定に基づきまして、非公開議題には該当しませんので、公開とさせていただきますので、御了承願います。

また、会議終了後、議事録を作成いたしますが、こちらも原則公開となっておりますので、事務局で作成後、各委員の皆様にご確認していただいたのち、確定させてまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

次に、本日の資料を確認させていただきます。

(~資料確認~)

なお、東海道かわさき宿交流館は3年前にできた新しい施設でございますが、今回初めてこの場所を使うということで、こちらのパンフレットも置かせていただいております。入場無料でございますので、また別の機会に御利用いただければと思っております。

それでは次第に沿って会議を進めていきたいと思っております。

初めに、金子上下水道事業管理者からごあいさつを申し上げます。

上下水道事業管理者 皆様こんにちは。本年4月1日付で上下水道事業管理者に就任いたしました金子でございます。どうかよろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中、また、お暑い中、出席いただきまして誠にありがとうございます。会議にあたりまして一言挨拶をさせていただきます。

私は先程も申し上げましたとおり、この4月から現職になりましたけれども、それまでは道路部門に長くおりました、主に幹線道路や橋梁、自転車関係の業務に従事してまいりました。

上下水道事業管理者となった感想といたしましては、「当たり前のことを当たり前にやることの大変さ」を実感し、特に責任の重い仕事だと痛感してい

るところでございます。多くの市民の皆様は、市内どこでも蛇口を捻れば、きれいな飲める水が出て、トイレやシャワーを使えば水が流れ、処理されるということが当たり前のことと感じていると思いますけれども、この一連のシステムを維持していくためには実に多くの人員や経費が掛かっておりまして、今後も皆様御存じのとおり、耐震化をはじめとし、取り組む課題が数多くあることを改めて認識したところでございます。

上下水道はどんな時代にありましても、人が生活する上で必要不可欠な基盤でございます。将来の人口動向などを見据え、施設の耐震化、更新、維持管理などを確実に進めるとともに、財政の健全性を維持し、将来にわたり市民や事業者の皆様へ安全な水を安定供給、適切な下水処理を進めていくことが私に課せられた使命だと感じているところでございます。

そのためには、長期的な視点に立って事業を運営することが大切でございます。昨年度から委員の皆様へ御審議いただいております「上下水道ビジョン」の策定は、まさに本市の上下水道事業の方向性を示すこととなる、大変重要な計画であると考えております。

本日は、これまで委員の皆様からいただきました、御意見を反映させた形で作成した、上下水道ビジョンの素案を御説明させていただきますので、忌憚のない御意見をいただけたらと思っております。簡単ではございますが開会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局 管理者の挨拶でございました。それでは続きまして、小泉委員長からご挨拶をお願いしたいと思います。小泉委員長よろしくお願ひいたします。

小泉委員長 委員長を仰せつかっております、首都大学東京の小泉でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

本年度第1回目の経営審議委員会になりますが、上下水道ビジョンの策定につきましては、昨年度中に3回ほどこの経営審議委員会の中で議論して、今回で4回目ということになります。

さて、皆さんも記憶に新しいと思いますが本年4月に熊本地震が発生しまして、水道や下水道といったライフラインに甚大な被害をもたらしました。現在では断水等は、ほぼ復旧したということでございますが、未だに自宅を離れて避難生活をしている方が多くいらっしゃる状況にあります。

私も来週、熊本に視察に参る予定です。あまり早く行っても向こうに御迷惑がかかってしまいますので、ちょうどこの時期に行こうと思ひます。

また、その地震の関係で申しますと政府の地震調査研究推進本部が、「全国地震動予測地図2016年版」を6月に公表しまして、全国各地で今後30年以内に震度6弱以上の大地震に見舞われる確率を示しましたが、神奈川県下では隣接する横浜市において、この確率が81%ということになってい

るところでございます。

申し上げるまでもございませんが、水道と下水道は市民生活に欠かすことのできない重要な生活基盤でございますので、このような点も踏まえて有事の際にも上下水道が機能するよう、今後も施設の耐震化やバックアップルート確保、地震を想定した訓練など、できることから順番にスピード感を持って対応していただきたいと、改めて感じているところでございます。

さて、前回の委員会では、事務局からこれまでの2回の審議を踏まえて検討した上下水道ビジョンの構成・体系など骨子イメージをお示しいただいたところでございます。

今回は、更に進んで、ビジョンの素案を用意しているとのことでございますので、委員の皆様から忌憚のない御意見をいただき、本委員会でしっかりと議論して、市民の皆様理解されやすい上下水道ビジョンを策定して参りたいと考えております。

委員会の時間も限られておりますので、挨拶は以上とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 委員長ありがとうございます。本日の委員会でございますが、要綱によりまして、委員長が議長となりますので、ここからの会議の進行につきましては、小泉委員長よろしくお願ひしたいと思います。

小泉委員長 承りました。
それでは、本日の議題に入らせていただきます。まず、議題（1）仮称ということですが、「上下水道ビジョン（素案）」について事務局から説明をよろしくお願ひいたします。

山梨課長 では議題（1）について説明させていただきます。着席のうえ、説明させていただきますので、よろしくお願ひいたします。まず資料1-1と1-2を御覧いただきたいと思ひます。

山梨課長 （資料1-1、1-2）（仮称）「川崎市上下水道ビジョン」体系図（案）
（資料2）（仮称）「川崎市上下水道ビジョン」（素案）についての説明

山梨課長 以上が素案の内容でございますが、実は、本日、古米副委員長は欠席でございますが、事前にこのビジョンの内容を御説明したところ、何点かコメントを頂きましたので、併せて簡単に御紹介させていただきたいと思ひます。
まずビジョン（素案）の26ページでございます。ここに体系が書いてありますが、基本目標2のところ。「下水道による良好な循環機能の形成」という文言が一般市民には、ちょっとわかりづらいのではないかと、といった御意見がございました。

同じく26ページで10年間の方向性の中で、基本目標1-3、基本目標2-3で「施設の管理・運営」という言葉を使っているのですが、管理・運営という言葉を使うと経営面と内容を誤解される恐れがあるため、他の言葉に置き換えた方がいいのではないかと、といった御意見がございました。

さらに27ページの中で、健全な水循環ということで、水循環の健全性が求められている件については、上下水道局の責務として、健全な水循環だけではなく、特に下水道事業においては、物質の循環といった視点も含まれるのではないかと、それも局の責務であるから「イ」の上下水道局の責務の方に盛り込んでいくべき、といった御意見を頂戴いたしました。

さらに、30ページでございます。本文の2行目、あるいは囲いの部分の中の上から5つ目ですが、ここに排除という言葉が書いてあります。排除という概念はあるのですが、それに加えて流出抑制の考え方が盛り込まれていない、という御意見がございました。

続きまして34ページでございます。基本目標3に関連して、上・工・下の3事業共通した目標になっていますが、サービス面や経営面の書き込みがされていますが、事業本体を連携して行う取組が書かれていないので、そういったことを盛り込まれるとよい、といったアドバイスがございました。

さらに36ページでございます。本文の中に、地域コミュニティの防災力強化といった取組が書かれていない、といった御質問がございました。これについては、写真として一番下に自主防災組織との給水訓練があり、今もやっているということで、これについては、本文に記述していきたいと思えます。

さらに40ページでございます。これについては、記述が全体的に抽象的すぎる、というような御指摘をいただいております。

さらに43ページでございます。特に写真や絵の部分ですが、特に現状でやっている内容が多く、ビジョンであるので将来やることをメインにイラストや写真を示してほしい、といった御意見がありました。

さらに46ページでございます。6行目で民間との役割分担といった文言を使っているのですが、今はそういった言い方よりも、官民連携といったような言い方が普通なので、置き換えた方がいい、という御指摘を受けました。

さらに46ページで、本文の中で、考え方は入っているのですが、単語としてアセットマネジメントという言葉が入っていないので、これを是非盛り込んでほしい、というような御意見をいただいたところでございます。

これらの意見につきましては、本日の委員会で、これから皆様から頂く御意見と合わせまして、可能な限りビジョンの中に反映させていきたいと考えております。非常に長くなってしまいましたが、以上で議題1の説明を終了させていただきます。

小泉委員長 どうもありがとうございます。ただいま、川崎市上下水道ビジョンの素案の内容について説明していただきました。また古米副委員長の御意見を事前にお聞きしたということで、お話をいただきました。

それでは、ただいまの説明につきまして、委員の皆様、何か御意見、御質問、何でもよろしいかと思imasるので忌憚のない御意見をいただければと思います。挙手をしていただきましたらマイクを持って参りますので、よろしくお願ひします。どなたからでも結構です。どうぞよろしくお願ひします。

吉田委員 まず、1つに説明を受けた中で、雨水、井戸水等についての活用方法についての記述がほとんどないんです。小学校は雨水を溜めて色々と活用させて、授業にも取り組んでいるのです。そういうような中で水道事業としては、配慮が少ないのではないかと考えました。

亀山部長 雨水の方は下水道の判断かな、というのもありますので、井戸水の件に関して。確かに記述の方は、ここにはあまり書かれていないのですけれども、まず井戸水の活用に関する部分というのは、水道事業の中から言ってしまうと、若干外れてしまうかな。といったところがあるのですが、ただ災害対策ですとか、そういったことをやっていく上では、今まで使っていた私共の井戸の活用については、色々検討しているところですので、おっしゃられた部分も含めて、30年、50年先を見据えた上で、井戸の活用の部分をどう表現できるか検討させていただきますが、そういった形で水道部、水道系としては、井戸の活用を図っていきたいと考えているところでございます。

関口部長 雨水の利用につきましては、御存知だとは思いますが、天水尊等で家庭の屋根からの水を一時、雨水タンクに溜めて、それを有効利用するような取組が各家庭でされているとか、学校でも取組をされているということでございますが、川崎市の中では、環境サイドあるいは区役所、あるいは学校サイドといったところで色々展開されているわけございまして、雨水のそれぞれの活用につきましても各局と連携してやっていきたいと思imasるので、そういった中で関係部署と連携して雨水対策もやっていくという表現で考えていきたいと思imas。

吉田委員 雨水をそのまま下水道に流すということになりますと、やがては、温暖化につながってくるのではないかと思imasんです。湯水の時には雨水を利用しなさいと盛んに言われるわけです。そういうようなときに、日ごろから、そういうことも着目する必要があると思imas。

小泉委員長 色々御意見があると思imasが、雨水利用というのは、平常時は非常に大

事だと思っております、今年みたいな渇水の時に、おそらく全ての家の雨水タンクは空になっていたのではないかと。ただ、平野部に雨が降って、山間部に降らないなど、気候の条件が色々あると思いますが、両方合わせてお考えいただければよろしいかと思えます。またそういったところも今後、御検討いただければと思えます。ありがとうございました。

長岡委員　いくつかあるんですけど、まず、いろんな施策、10年間の方向性というのが10ぐらいですか、持ってやっていきますと書いてありますが、大まかでも数値目標的なものは、出せないですか。

例えば耐震化でも、どれぐらいの耐震化、これぐらいにしますとか、あとは高度処理も書いてあるんですけど、今は高度処理はこれぐらいですけど、10年後はこのぐらいにしますとか、何かきちっとした目標、数値じゃなくてもいいのかもしれないんですけど、大まかな数値が無いと、どうもイメージが湧きづらい気がするんですが、その辺はちょっと難しいんでしょうか。というのが一番感じたことです。

古米先生も指摘されたところなんですけれども、43ページの地球環境の配慮のところ物が足りないというのですか、10年間で、できることだから限られているのかもしれないんですけども、18ページの新下水道ビジョンの図と比べてちょっと物足りない。というのが率直な印象で、いろいろ放射能の問題があるから、できないのかもしれないんですが、もう少し積極的なことができないのかと思いました。

官民連携のことですが、33ページの下の方に「官民連携が適切に実施されていることに加え…」と書いてあるんですけども、官民連携の今の川崎市上下水道局の現状がどのぐらいで、今後どうしていくのか、これを拡大していくのか、あるいはもうちょっと直営を増やしていくのか。先程、職員の分布の話もあったんですけど、そういうビジョンというのがない。さらっと官民連携適切と書いてあるんですけども、これを拡大していくのか、あるいは、現状でいいのか、何か説明があるとわかり易いのかなと思いました。

山梨課長　御質問ありがとうございました。今、3点御質問いただいたと思いますが、1点目と3点目について、考え方をお話しさせていただきたいと思えます。

まず1点目の数値目標がないとビジョンがわかりづらいという話でございしますが、この後お話しさせていただく予定でございましたが、上下水道ビジョンの下に、実行計画として、中期計画を策定する予定でございしますので、そちらの中で現状がどうあって、その中期計画の終わり、5年後には、」どうあるべきか、ということをお可能な限り数値化して、しっかり進行管理ができるよう、目標が明確になるように、そちらの中で書き込んでいく、というように考えています。

3点目の官民連携についてでございますが、長岡先生に御指摘いただいた

最初に出てくるところでは、その説明がなくて、その後に出てくるところで解説があったので、順番を替えたらどうかなと思いました。最初のところに用語解説を表示していただければ、市民もわかり易いかなと思いました。もう1点は、15ページの水環境のところ、多摩川に鮎が遡上するほど水環境が良くなったと書いてあるんですけども、水質が良くなったというのが、それだけの表現ではちょっとわかりにくいので、もし、下にデータや写真などを載せるのであれば、現状の多摩川の水質についての状況がわかるような指標も一緒に載せられれば、わかり易いかなと思います。

小泉委員長　　ありがとうございます。アセットマネジメントという言葉は厚労省の委員会で委員長をやっているときに作りましたが、資産管理という言葉もアセットマネジメントという言葉も一般市民には、なかなかわかりにくいだろうと思いつつ、そういう言葉で作ってしまいましたが、下水の方はストックマネジメントと少し言葉を変えたりしていますが、ゆくゆく何かわかり易い言葉というのを少し工夫してまいりたいという風に思いますし、今の御意見もいただいておりますので、水道部長何かありますでしょうか。

亀山部長　　先程の湧水の件なんですけれども、表現的には岩瀬委員がおっしゃるように、もうちょっとなのかということはあるんですけど、今まで水源開発をしてきておまして、その水源はダムがいっぱいあるんですけども、そういったところをうまく有効活用して、という表現をさせていただいているんですけども、市民に対する表現が足りないというところは、委員のおっしゃるところを気に置きながら内容については、再度検討させていただきたいと思います。

ちなみに神奈川県は湧水になっていませんが、確かに少雨傾向でございまして、御心配されているということで、御紹介しますが、川崎市の水源全体でいいますと貯水率が76%ぐらいです。少雨傾向で、ダムの貯水率は若干下がり傾向ではあります。今後、雨が少し降れば、運用の中でやっていくような形にしています。ここにも表現はしていますが、ダムがいくつもあるんですけども、その余裕のあるところから水を使ったりですか、そういったことを実施しておりますので、将来に向けても同じようなことを進めていきたい。ということをもう少しわかり易く表現させていただきたいと思います。

関口部長　　先程、多摩川に鮎が戻ってきたということだけでは、数値的によくわからないとお話がありましたので、事務局の方でも説明しなかったもので、御説明させていただきたいのですけれども、8ページの下にグラフが載っております、少し見にくいのですが、年代とともに下水道が普及してきました。下水道が普及してきたのはブルーの塗りつぶしのところで、これが人口普及率

です。それから折れ線グラフは水質を表しておりまして、赤のグラフがありますけれども、このグラフで等々力水処理センターが昭和57年に稼働してから、水質がどんどん良くなってきているんです。多摩川の河川の汚れがどんどん少なくなってきました。BODという指標があるんですけども、川の汚れを表す指標なのですが、下水が普及するに従って、川の水がきれいになってきているということを表したグラフでございませう。こういったところで下水道の効果を表していきたいと思うんですけども、どうしても専門的な表記になってしまっておりますので、もう少し皆さんにわかるように今後検討して参りたいと思います。

小泉委員長　よく教科書に、BODの水質でどんな魚が生きられるのかというのがありますが、そういうものをちょっと参考にしてやられたらいいのではないのでしょうか。ありがとうございました。

先程、アセットマネジメントのことで発言しましたけど、ある意味で水道が動脈で下水道が静脈だとしますと、動脈年齢とか静脈年齢というような言い方をいろいろなところで人間に対してしますが、そういった感じの雰囲気、今いったい川崎市の水道はどうなのか、下水道はどうなっているのか、下水道はちょっと若い、作り立てといった感じで、水道の方は少し歴史がある。これから更新をアセットマネジメントをちゃんと考えてやっていくということで、管路にしろ、施設にしろ、長寿化、高齢化しているわけですが、川崎市の場合は何歳ぐらいなのか。というイメージが出せるような表現を少し考えていただけるといいのではないのでしょうか。専門的にまとまっていますが、一般市民の方が読んだときに、おそらく今の委員の御意見が必ず出ると思いますので、最終的には何となく感覚的に、わかるような工夫をされたらよろしいかな、このように思います。どうぞよろしく願いいたします。

上下水道事業管理者　私も先程御説明したとおり、この4月にきたばかりなのですが、この素案を見て、まず一番初めに、市民が見て、専門用語が多過ぎるので、わからないということをお話しさせていただきました。先程、事務局からも言われたとおり、最後に用語の説明を入れることにします。ただ、用語の説明も専門用語で話してもわかりづらいので、委員長からもありましたとおり、もう少しわかり易く説明できるようにしていきたいと思っております。

小泉委員長　ありがとうございました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

中野委員　21ページの内部環境のところですが、内部環境の中で、(1)施設の老朽化、(2)職員の大量退職、(3)料金収入の推移、と指摘されているんですけども、最初の老朽化を出すことによって、これから更新需要が高まるというのはわかるんです。(2)職員の大量退職、というのも、技術の継承

をどうするかという課題も見えるんですけども、(3) 料金収入の推移、
というのを見たときに、どう理解したらいいのか、ちょっとわかりづらい気
がするんです。横ばい、ということが何を言いたいのか。どちらかという
と事業の収支の方がわかり易いのではないかな、と思うんです。収支が改善
しているのであれば健全化しているとか、もし悪化しているんでしたら、少し
課題があるなど、課題がわかるようなものの方がいいような気がします。そ
の場合、こちらを(2)の方へ持ってきて、職員の方は(3)でもいいよう
な気がするんです。順番的にはそちらの方がスムーズでわかり易いような気
がします。

山梨課長 御指摘いただきまして、ありがとうございます。内部環境の整理の中で、
料金収入ということに絞って、24ページ、25ページで掲載させていただ
きました。これについては、できるだけ今後課題となる点を抽出して、皆さ
んに見ていただくという観点で掲載しておりまして、人口が増えているに
も関わらず、料金収入の方は、なかなか伸び悩んでいる。これは1つの課題
として認識しているところでございます。

一方、収入だけではなく、収支はどうなのか。といったところですが、今
日はデータを提供できていないところではございますが、比較的、近年では
水道事業、工業用水道事業、下水道事業とも良好な経営環境となっていまし
て、毎年度利益を出している状況でございますので、そういった状況をここ
で載せた場合に、それを見て傾向としてどうなのかというのが将来つかみづ
らいというのがありまして、あえて収入のみ載せさせていただいたところ
でございます。ただ、広い情報を載せるというのは必要かなと考えております
ので、収入だけではなく、収支はどうなっているのかといったことも情報と
して載せるのはあるのかなと考えています。

安藤委員 3点ほどお願いいたします。まず第1点は、第3章で外部環境と内部環境
で課題ということを挙げているわけですけども、外部環境の方はできない
こともあるかと思うんですが、内部環境での課題については、その後の何に、
どういう風に反映していくのか。これが3章ですから、4章にいつて内部環
境の人の今後の増加がないとか、ここに反映しているという表現で、うまく
リンクしていった方が読んでいくときには、3章を読んで4章にそれが入っ
てくる。という形になるとわかり易い。外部環境については、人口の増加が
そうないので、今後50年間は何十万と想定して今後全部、議論を進めてい
くとか、せっかくデータを作って、これをその後のどこに利用しているん
ですか。というのが見えない。課題は書いてあるんですけども、対策の方にど
ういう風に反映していくのか。それが見えるようになったらどうかと。

2点目は、先程もちょっと話がありましたが、資料の1-2ですけども、
10年間の方向性ということで、ここに書いてあるわけですけど、先程数

値目標ということがありましたが、私も何らかの数値目標が本来は、ないとおかしいのかなど。このビジョンという中において。次の事業の方は事業の方であるんでしょうけど、ビジョンの書類だけが独り歩きするということがあるんです。ビジョンだけが独り歩きした場合に、例えば10年間と切った根拠はなんだと。15年後、20年後は、ここの中身は変わるんですか。たぶんこの文言だけでいったら、変わらないです。だけど、そこでやっている事業が全て変わっているはずですから、わざわざここで書いている10年間の方向性というものを切るためには、やはり数値的なものがそこに入ってくる。ということで、何かこの方向性のところに数値が私もあった方がいいと思います。

3点目ですが、例えばの例で30ページですけれども、前回もお聞きした記憶があるんですけれども、このビジョンということに対しての、ここのいろんな表現が、ここを読むと全部できているんです。もう、出来上がっているんです。「安全な水道水の供給と排水機能を確保し、安心して暮らせる市民生活を守ります」で、その中に枠で囲った将来像を表現ということで、まず1番目は、3行目で信頼を確保しています。私がとるイメージは、これは、もうできています。今現実できています。次の管理ができています。供給は継続しているから何の問題もないんです。と私はとるんです。だけどここでみなさん書いているのは違うんです。将来、10年後にこういう確保をします。というんですか。前回、懇親会の場でそういう話があったものですから、やはりビジョンに対して今、現状がどういう状況で、何ができていて、何ができていないのか。このことをやるから将来のビジョンとして安全な水が100%確保できるんです。安全な水を確保するために何を今後やらなければいけないのか。という流れが見えないんです。では、安定供給というのは、どこに掛かっているものなのか。1番では安全な水と安定供給、これが目的ですよ。安全な水というのいろんな数値上のものがあるんでしょうけど、その数値を今の水管理システム、浄化システムでやれば、もういいんですと。そうしたら、もう出来上がっているわけですよ。という風に私はとってしまうので、30ページだけで話しましたが、全部のところそういう風なものがあるのではないのかなと思います。

山梨課長 御質問ありがとうございました。御質問3点いただきました。

1点目なんですけれども、第3章で課題出しして、特に内部環境は対応が可能であろうから、その後の第4章以降に反映させるべき、どう反映させたかわかりづらい。ということでございます。これについてでございますけれども、確かに今の構成を見ると第3章で外部環境・内部環境を整備していて、じゃあ10年間の方向性は、どうするのかということで、第5章の終わりの方に飛んでしまうところもあって、関連性がわかりづらい部分ではあるんですけれども、例えば内部環境で整備しました、1点目の施設の老朽化ですと、

21ページ、22ページ、この部分については、その後の目指すべき将来像ですとか、10年間の方向性の中に、まずはしっかりと維持管理をしていくことですか、あるいは財源を確保した上で適切な更新をしていくこと等々書き込んで、課題を出しっぱなしじゃなくて、しっかりとやる内容を、これは10年間の方向の更新のレベルなんですけど、書き込んでおるところでございます。

それから質問の2点目でございます。資料1-2で10年間の方向性を出して、ここでやはり数値目標が必要だと。その理由としては、やはりビジョンの独り歩きも心配だということ。あと全体で30年から50年見るのであれば、じゃあ10年だけじゃなくて、その後の20年後はどうか、色々課題があるということをおっしゃられております。この点についてなんですけど、独り歩きの話なんですけど、この後、議題2で中期計画の説明の時にお話をさせていただこうかと思っておりますが、本日はビジョンの素案を審議していただいております。この方向性を御了解いただければ、その後、中期計画を作って、次の審議委員会で議論していただきまして、最終的には年度末に上下水道ビジョンと中期計画を合冊して、1つの本として、この基本理念から末端の取組までが全て1冊でわかるような形で、作り込みをしようということを考えておりますので、そういった意味ではビジョンのみの独り歩きはあまりなくて、むしろビジョンでは抽象的な記述となっているので、より具体的にどうやるんだというのは、冊子をめくって頂いて、中期計画の方に行くとか数値目標ですとか具体的な現状、データ、これを載せられることがあると思っておりますので、全般的に見ていただければわかるような作りにしたいと思っております。

併せて合冊の話もあるんですけど、ビジョンと中期計画を合冊するというところでいきますと、中期計画はこの後5年間、上下水道ビジョンは概ね10年間で、じゃあ5年後どうするのっていう話が出てくると思うんですけど、それについては5年後にビジョンの方もしっかりと見直しをしまして、今回の内容で30年確定ということではなくて、見直しも行ってビジョンの全体と次の中期計画の作り込みをすることによって、随時アップデートしていく、という風に考えているところでございます。

それから全体的な話だと思いますが、表現があまりよくないのかもしれませんが、全て今、出来上がっていることを書いてあるようにしか思えない、といったようなところなんですけど、特に30ページから33ページのところについては、将来こういう風な状態になっているといったような記述で書き込みをしたいなと思っておりますので、例えばお客様の信頼を確保しているとか、適切な管理が出来ているとか、安全な水の供給、継続しているとか。という言い方になっているんですけど、確かに現在もやっていることではあるんですけど、将来もしっかりとそれを継続しているという、特に水道、工水、あるいは下水道事業というのは歴史が古い事業でございます、ほぼ今の形態

でしっかりと必要な機能は確保できているという風に思っていますので、今後例えば30年後、50年後を見た場合に今とはかなり違った形でどうあるべきか、というところは、なかなか書き込みがしづらいといった事業の特性もあるので、今の状況を維持しながら、少しずつレベルアップして将来、水道、工水、下水の基本機能がしっかりと担保されている状態になっているといったことを表したい、といったところでこういった表現になっているものでございます。

小泉委員長 ありがとうございました。今日は、素案をお示しいただいたので、まだまだ皆さん御意見あるかと思えますし、これからまた、中期計画ということとのからみで素案もまたフィードバックされていくと思えます。今日は時間の関係もございますので、まだ御意見あるかと思うのですが、議題を2に進めていただいて、全体的にまた意見を言っていただけたらと思えます。

では、議題2の川崎市上下水道事業中期計画（構成案）につきまして、事務局の方から説明をお願いします。

山梨課長 （資料3）（仮称）「川崎市上下水道ビジョン・中期計画」体系図（案）
（資料4）（仮称）「川崎市上下水道事業中期計画」（構成案）についての説明

小泉委員長 ありがとうございました。この中期計画の中には、先程来、先生方からできてきている、具体的な数値目標等も入ってくると。しかもそれに係る予算というんですか事業費も入ってくる、ということでございますので、具体的な話になろうかと思えます。私もこういったビジョンを作っていく場合に、10年という多少短い思いはあるんですが、水道、下水道の場合、やはり100年先ぐらいを考えていかないと、頭の中にですね。そういった中でとりあえず10年のビジョンを作ろうと、そういう中でも、また中期計画を作っていくと、こういう遠い未来があつての10年なり5年なり、そういうことでしっかり作っていただければと思えますし、内容的には非常に素晴らしい、項目は、ほぼ全て網羅されていると思っておりますし、日本の中でもトップを走る川崎市上下水道局の上下水道ビジョンだと、このように思えます。ただ、やはり先程来、申し上げていますように、一般市民に伝わらなければ、ここだけで終わってしまう訳で、やはり一般市民の理解を得る中で、できるだけわかりやすく、まとめた後、概要版を作る時に、非常にわかり易い言葉で転換していただければありがたいですし、上下水道局だけで満足していたのではいけないわけで、やはり市民のための上下水道、このように思えますので、是非その点はよろしくお願い申し上げます。さて、議題2のところの説明いただきましたが、何か議題1も含めて御意見いただければと思えますが、いかがでございましょう。

長岡委員 先程からの数値目標なんですけれども、やはりビジョンを読んでいる、耐震化率が今のくらいで、どのくらいになるかというのを知りたいと思うんですね。例えばこれが、20%を50%にするのと、80%を100%にするのでは違いますよね。それを知りたいと思ったら、こっちを見て探して読まないといけないというのは、どうも、いくら合本だといってもわかりづらいんじゃないかなと。だからビジョンの部分と中期計画の部分を分けるっていうのは、ちょっとどうなのかなって感じはするんですね。1つの施策について、どういう目標があって、どういう状況があってというのが一緒になっての方が私は見やすいんじゃないかな。という感じがするので、ちょっと検討していただきたいと思うんですね。いちいち見るというのは、なかなか難しいんじゃないかなという気がします。

山梨課長 やはり、色々数値が出る、出ないで見やすさが変わってくる部分も確かにあるのかなという点も感じますので、中期計画を作成する中で、やはりビジョンからの連動性を見て、ビジョンの方にも必要な部分については、一定程度入れるなど、そこについては考慮したいと思います。

小泉委員長 おそらく、概要版を作ることになると思うんですね。こんな分厚いのを全部読み通すというのは、よっぽどの専門家か、よほど興味のある方であって、一般の市民の方は4ページぐらい、あるいは6ページぐらい。見開き2ページは、ちょっと少ないですけど、せいぜい4ページか6ページの概要版で見ると思うので、長岡先生がおっしゃったようなことは、そこでパッと一目でわかるように工夫すればよろしいのではないかと思います。何十ページも読まないといけないようなものでは、誰にも読んでもらえないので、是非そういった概要版の工夫をやっていただければ、と考えておりますのでよろしくをお願いします。

安藤委員 今のお話を聞いて大体わかってきましたけれども、先程もちょっと説明があったんですが、水道事業、下水道事業ということで、もう出来上がった部分はかなりあるものですね。そういう中でのビジョン、中期計画ということになると、やはり今、人が少ない、お金がないという中で、維持管理に重点を置いた書き方のもの。あとは新たな何か技術が開発されて、それをいかに取り込んでいくか。そういうような視点での書き方というのがあるのかな、維持管理にかなりのものが書かれるようなものになるのかなと思います。

山梨課長 ありがとうございます。おっしゃる通りでございます、これから新しく建設するというよりも、やはり事業の特性上、これを継続して更新しながら、あるいは更新を効率的にやるために、日ごろの維持管理が重要だと考えてお

りますので、そこについては、水道ビジョン、下水道ビジョンでもやはり同じような考え方があってですね、今回キーワードとなり得る一つの言葉がアセットマネジメントだと思います。そういったことで、ビジョンにも盛り込ませていただいているところではあるんですけど、やはり、わかりづらいということもございますので、ここは、なぜアセットが必要で、そういったことによってどうなるのか、というのを市民の方にもわかっていただけるような形で、しっかりと強調しながら書いていきたいと考えておりますのでよろしくをお願いいたします。

中野委員 2点ありまして、1つは中期計画の施策の(2)の広域連携の推進というのがあるんですけども、施策でどうもって対応するのか。これも意味がよくわからなかったんで、具体的に言うと企業団か何か指しているのか。よくわからないので、教えていただきたいんですけども。

もう1つは、先程の更新の話と関連するかもしれませんが、もともと上下水道ビジョンは30年、50年見据えた将来像だということですよ。ついこの間、いわゆる再構築、水道の再構築が結構大きな改革だったと思うんですけども、そうすると、もしかしたら今度ここに盛り込む将来像には再構築になるようなものは含まれない、やらないんですかね。なんか色々お話を伺っている中、アセットマネジメントというのも再構築と同じ意味に使っているのかなど。そこをもう少し具体的に書かれるといいんじゃないかなって気がします。

山梨課長 2点ほど質問いただきありがとうございます。1点目の広域連携の推進ということで、あくまでもサンプルではございますけれども、方向性としては現在も連携はしているんですけども、神奈川県の場合は水道企業団と神奈川県水、横浜、横須賀と連携して水源開発したりとか、あるいは水運用したりしております。将来形としては、これをまたガラガラポン、ということは、なかなか考えづらいところであるんですが、この連携をより強化して、より県内のシステム全体として効率的となるような取組を関係事業体、企業団等と連携しながら考えていく、というような方向性でございます。

それとあともう1点が、アセットマネジメントを具体的にということでございます。水道、工水は再構築をやって、浄水場を水道の方は3つを1つにした、と大きな目に見えてわかるようなところがあったのですが、アセットマネジメントはわかりづらい部分があり、維持・管理の手法としては、かなり書きづらい部分はあるかという風に考えておりますので、ここを市民にわかり易い形、かつ水道、工水でやった再構築とは違うんだということで誤解を招かないような形で書き込んでいきたいという風に考えております。

小泉委員長 よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。だいぶ時間も経過

してしまいましたが、何か他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。今日は素案ということで、中期計画が出てきて、また色々と議論を深めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、議題の3ということで、その辺も含めてスケジュールについて、説明よろしくをお願いいたします。

山梨課長 (資料5) (仮称)「川崎市上下水道ビジョン・中期計画」策定スケジュールについての説明

小泉委員長 どうもありがとうございました。次回までに多少時間もございますので、今日、御発言いただけなかった委員の皆さんにも、事務局の方に、もし何かあれば、メールあるいは電話等で御連絡いただければ、そういったことを検討していただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。では、そういったスケジュールに基づいて、今後進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

では、議題4、その他ですが事務局から何かございますか。

山梨課長 議題とは違いますが、連絡事項がございますので、1点報告させていただきます。委員の皆様任期についてでございます。皆様、任期につきまして、平成26年の10月1日から2年間といったお約束で就任していただいております。本年の9月30日をもって任期の満了となりますので、実質的には、今回が現任期での最後の委員会ということになります。今後なんですけれども、学識経験者の皆様におかれましては、個別に相談させていただくと共に団体推薦の方につきましては、また団体元に推薦を依頼させていただきます。また、公募委員の方におかれましては、市民を対象に幅広く募る必要があるため、8月8日から8月26日までの間で公募委員を募集いたしますので、安藤さん、岩瀬さんにおかれましては、よろしかったら再度応募いただければ、という風に思っております。この2年間、委員会への協力と貴重な御意見を賜りまして本当にありがとうございました。以上でございます。

小泉委員長 どうもありがとうございました。一応任期というのがあるということでございますので、皆さん色々ありがとうございました。また、10月1日以降も継続される委員の皆様には今後も、是非よろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、議題は以上でございますが、何か他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。では、この辺で本日の会議を終了したいと思います。暑い中で、ここは涼しくて快適でしたけれども、どうも本当にお疲れ様でした。では、事務局にマイクをお返しします。

山梨課長 小泉委員長ありがとうございました。

これで本日の会議は終了となりますが、冒頭、ご説明しましたとおり、議事録につきましては、出来上がり次第、各委員の皆様へ送付させていただきますので、内容をご確認いただき、修正がある場合には事務局まで、ご返送いただければと思います。

本日は誠にありがとうございました。